

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A 棟)

事業所番号	0270101140		
法人名	社会福祉法人 桐紫苑		
事業所名	グループホームこうばた		
所在地	青森県青森市幸畑字谷脇214-1		
自己評価作成日	平成22年12月29日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気を保ちながら言葉掛け、介助支援等、丁寧に対応している。
 ・老人保健施設が併設しており、施設で開催している行事に参加して楽しんだり、デイケアの天然温泉も利用でき、希望者は入浴を楽しんでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
 (公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年2月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「管理者及び職員は自分たちで考えた「地域の人達と交流を持ちながら家庭的でやさしく明るい笑顔でふれあい尊厳をもって見守り支援します。」という理念を掲げ、常に意識したケアに努めている他、できるだけ地域で使われている言葉を使い肩のこらないサービスの提供にも努めている。希望者には、敷地内にある施設の温泉入浴も楽しめるようになっており、このホームの特徴にもなっている。職員同士のコミュニケーションも良く取れており、利用者は思い、思いに落ち着いて生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>ホームの理念を玄関に掲示し、職員は理念に照らし合わせた介護を目指し、思いやりと優しさをモットーにし家庭的な雰囲気重視している。</p>	<p>ホームの理念は、地域密着型サービスになってから管理者及び職員全員で作成されたものであり、常に理念を念頭において日々の実践を心がけている。また、日々のケアの中で壁にぶつかった際には、常に理念を思い出すよう周知を図っている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日頃から近隣の人たちに気軽に立ち寄りてもらえるように関わりながら、ホームを理解してもらい、交流するようにしている。</p>	<p>同じ敷地内にあるデイサービスの利用者が時々来所したり、年に1~2回中学生の職場体験や医療関係者の見学がある。特に、日頃から近隣の人たちに気軽に立ち寄りもらうなどの働きかけは行っていない。</p>	<p>ホーム独自の行事を開催し、近隣の人たちに足を運んでもらうなどの取り組みから、徐々に交流を深めるような取り組みに期待したい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>外部から地域の方々を受け入れる時は、利用者のプライバシーに充分配慮している。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の運営推進会議を継続。その他老人会や地域の行事への参加に努めている。</p>	<p>運営推進会議は定期的開催している。メンバーには民生委員、町内会長、地域包括支援センター職員等が入っているが、出席率があまり良くない。ホームの報告について意見を頂いている。</p>	<p>委員の出席率を高めるために、運営推進会議の意義を再度説明し、年間の開催期日を決める等、できるだけ出席しやすい対策を講じられたい。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>毎月の入居状況の報告、その他不明な事や必要な事は、電話やファックス等で問い合わせ、連絡している。また、必要と判断した情報については、職員全員に伝達している。</p>	<p>運営推進会議には市役所の職員は参加していないが、困った時などは市役所に連絡をとり、随時対応している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>職員は事故防止について学び、常に気配りすることで身体拘束はしていない。また、玄関の鍵はかけない。</p>	<p>管理者及び職員は身体拘束の内容とその弊害について理解しており、日常のケアでは身体拘束は行わないという姿勢で臨んでいる。また、外出傾向のある利用者には、さりげなく見守りをしており、外出を察知した際は職員が付き添い支援している。また、無断外出に備えて町内会長などに協力をお願いしており、協力体制は出来ている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止に関する研修に参加し、マニュアルも作成している。そして、皆で共有し、虐待が見過ごされないようにしている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>職員は、研修等に参加し理解しているが、現在、利用者はいない。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族の不安や疑問を尋ね、十分な説明をしている。そして、希望や要望を取り入れるようにしている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情担当者を置いて、速やかに対策を検討し、改善に努めている。</p>	<p>玄関には意見箱を設置している他、家族が面会に来た際に意見を聞くように心がけている。また、利用者で意見表出が難しい場合は、利用者の言動から本人の不満や意見等を察するよう取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族が意見を出しやすいように、利用者の暮らしぶりや健康状態、受診状況、金銭管理状況等を家族に報告し、職員ミーティングで共用し、意見を出し合っている。	ミーティング等で出された意見等は、随時運営に反映されている。異動等を行う場合は、利用者にも与える影響を最少にするための配慮を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断の実施等、職員の心身の健康を保っている。就業規則があり守られている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	より多くの職員が研修に参加出来るように積極的かつ定期的に取り組んでいる。研修後は学習会をし、皆で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列のグループホームとの交流、情報交換、また、他のグループホームの見学等をし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受けた後、本人や家族に会い、要望や希望を受け止め、出来る限り満たす事が出来るように話し合い、実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族との信頼関係を築く事を介護目標とし、皆で協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、利用希望や家族のニーズに対し、必要な事を見極め、対応出来る事は柔軟に実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、家庭的な雰囲気のもとで一緒に過ごしながら支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員全員が家族の立場を理解し、家族と一緒に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を活用し、本人の馴染みの人や場所等の関係が途切れないように努めている。	利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等を把握し、友人や家族への手紙や電話での連絡を支援している。また、行きつけの美容院などの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居時は必ず入居者に紹介し、受け入れてもらえるように配慮している。また、日常的に声がけをし、孤立しないように気配りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院したときは見舞い、面談することで本人の状態把握をし、家族や医療機関と連携をとっている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向等が充分把握出来るように全職員が利用者の視点に立って、意向を把握するように努めている。	職員は日常のケアを通して思いや希望を把握するよう努めている。また、意向について把握が十分出来ない場合は、職員が全員で把握するよう努めている他、家族や関係者からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、これまでの暮らしを把握した上で、ケア計画を作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の暮らし方、生活リズム、利用者の出来る事、出来ない事を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は、利用者の状態や家族の希望に変化がないか、常に観察や把握する取り組みを行っている。	介護計画は利用者の意向をできるだけ取り入れるよう努めている他、必要に応じて家族等の意見を取り入れて作成している。また、介護計画実施結果一覧表を作成しており、家族の希望や利用者に変化がないか常に観察を行い、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実施状況や職員の気づき、工夫した点等を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の民生委員等に協力を呼びかけている。また、幸畑地区の交番にも協力を依頼している。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者や家族が、希望する医療機関を受診できるように支援している。</p>	<p>各利用者のこれまでの受療状況が把握できる。希望する医療機関を受診できるようになっており、受診状況については各利用者の投薬記録から把握できる。また、受診結果については、利用者や家族との情報共有が図られている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は、利用者の身体状況に変化があったとき、24時間対応で看護師に報告し、指示を受けている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関と利用者に関する情報交換を密にしている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度や終末期の利用者が、日々よりよく暮らせるためにできることを見極め、かかりつけ医と連携して支援している。</p>	<p>終末期のことについては、入居後から徐々に話し合い、重度化に備えた対応については、利用者の状況を踏まえた上で、家族やかかりつけ医とも相談する等し、意思統一を図っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時は、全職員が対応できるように、緊急対応マニュアルを作成し、実施している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の頻度で日中及び夜間を想定し、避難訓練を実施している。	年2回、夜間・日中を想定した避難訓練を行っている。また、災害時の対応について、運営推進会議のメンバーにも協力を依頼している。消火器や避難路の確保等の設備点検を定期的に行っているが、災害発生時に備えた物品は用意していない。		ホーム内に災害発生時に備えた、食料や飲料水等を確保されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーに配慮している。また、利用者の言動を理解し、否定したり拒否しない。	利用者一人ひとりのプライバシーには日頃から十分配慮しており、日々のケアの中で利用者の言動を否定することはない。また、トイレ誘導等はさりげなく行い、羞恥心に配慮している他、個人情報管理にも十分配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式を活用し、理解力を発見できるように努力している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合やスケジュールではなく、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを聞いたり、化粧を勧めたり、おしゃれを楽しめるように働きかけをしている。また、希望者を理・美容院に連れて行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしゃべりをしながら、食事の準備をする人、後片付けをしてくれる人がおり、楽しくやっている。また、食事は職員も一緒にテーブルでいただいて、会話をしながら、楽しい環境をつくっている。	献立は利用者の好みや嫌いなものに配慮して作成しており、嫌いなものには代替えのものを提供している。また、利用者の状況を見ながら、現在は食器の後片付けを一緒に行い、食べこぼしのサポートを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量と水分摂取量を記録し、把握している。また、嚥下機能が低下している人には、調理の工夫や介助方法を工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内ケアの必要性を理解し、毎食後に口腔ケアの声がけや見守り、介助している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、それに応じて入居者を誘導し、自立に向けた支援を行っている。また、失敗時の対応はプライバシーに配慮している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、記録している。現在、利用者の半分はオムツを使用しているが、できるだけ日中はトイレ誘導を行う支援をしている。また、失禁時等にはプライバシーに配慮された支援が行われている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食事やメニューの工夫、水分補充を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の意向を取り入れると共にプライバシーが保たれるように配慮している。そして、希望者は併設の温泉を利用することも出来る。	入浴は基本的には週2回としている。同じ敷地内にある関連施設は温泉になっており、希望すればいつでも利用できるようになっている。また、利用者の羞恥心に配慮し、拒否した場合は時間を置いて対応する等、工夫して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付けない入居者に対しては付き添ったり、温かい飲み物を提供するなどの対応をしている。また、必要に応じて家族と医療機関へ相談し、眠剤等を出してもらっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者一人ひとりが使用している薬の内容や副作用について把握している。そして、指示通り正しく薬を与えている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりにあった役割や、楽しみごとを理解し、促すようにしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら、日常的に外出の機会を作っている。	利用者との日頃の話し合いの中から、利用者が行きたい場所を把握するよう努めている。また、外出の際は利用者の身体状況や精神的な状況も配慮し、その日の状態に合わせた支援に心がけている。必要に応じて、家族からの支援も得ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の金銭管理能力と希望に配慮し、小遣い程度の金銭を所持できるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に来る電話や手紙を歓迎し、また、利用者が家族や知人に電話や手紙を書く時は支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節の草花を飾ったり、写真やのれん、絵等手作りの物を飾り、生活感を取り入れ、家庭的な雰囲気になっている。	共用空間であるホールには家庭的なテーブルや椅子があり、その他の調度品についても家庭的なものとなっている。季節感のある飾りつけをする等の工夫もされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間が、気兼ねなく思い思いに自由に過ごせるように工夫している。また、利用者が一人で過ごせる場作りをしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇、ソファー、人形等を持ち込んでおり、一人ひとりが居心地良い居室となっている。	居室には、利用者が入居前から飾っていたぬいぐるみや置物が飾られている。また、持ち込みの少ない利用者に対しては職員が利用者や家族とも相談をしながらポスターを貼るなどの工夫をして殺風景にならないようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所間違いを防ぐため、必要時個々に合わせた表示をする等している。また、手すりや玄関にスロープを取り付けて対応している。			